



横浜国際高等学校
国際科国際バカロレアコース
進路のしおり

2022



目次

1. IB コースを選択して進学する	2
2. 国内進学について	3
3. 海外進学について	4
4. 併願について	5 - 6
A) 国内と海外の併願について	
B) 国内と海外の併願について	
5. 奨学金について	7
6. 進路状況	8 - 10
7. 卒業生から在校生へのメッセージ	11 - 21

1. IB コースを選択して進学する

IB コース生は、海外・国内ともに自身が3年間で培ってきた総合力を駆使して、進学していくこととなります。日本国内の一般選抜のように学力検査を受けて合否を測られるような形式ではなく、表現力や論理的思考力などを必要とする選抜方式となります。IB コース生は、多くの課題や論文執筆に取り組み、課外活動で多様な経験を積むことが見込まれます。そのため、自分の活動をポートフォリオとして、記録しておくこと出願の準備の際に役立ちます。大学が提示するアドミッションポリシーと生徒自身の希望が合致することが満足度の高い進学に繋がるため、大学・学部研究をしっかりと行うとともに、自己分析を行い自分のこともよく知るよう努めましょう。IB コースでの学びを活かした進路選択ができるよう1年次から準備する必要があります。

3年間の流れ

1年次：大学・学部を知る

1年次から始める大学研究は非常に重要です。それぞれの大学の特色（強み）を理解していくためには資料や書籍の読み込みも必要なため、時間がかかります。大学選びをスムーズに行うためにも1年次でのリサーチはしっかり行うべきです。海外大学のリクルーターを招いた説明会は世界情勢によりウェビナーに置き換わっています。自分で興味のある大学のホームページにアクセスして、参加してみると良いでしょう。海外の大学情報も大学のホームページより入手可能ですので、幅広く検索してください。また、9月から11月ごろに各国の大使館などが実施する留学フェアに参加し、情報収集をしましょう。フェアでは大学の入試担当の方や卒業生と話ができるため、インターネットではわからない情報も収集できます。国内でもオープンキャンパス等を利用して大学・学部研究を進めてください。できるだけ多くの情報を集めて、大学決定に活用しましょう。

2年次：大学選択の準備

大学のことを知ると、その大学に合格するために、自分が何をすべきかが見えてきます。例えば、IELTSで6.5が必須条件の場合、あとどれくらいの積み重ねが必要で、いつまでにそのスコアに到達しないといけないかが明確になります。受験可能な時期や回数をよく検討して、出願までの計画を立てることが大事です。3年次になる前に、出願大学を絞り込み、入試要項を取寄せる手配や、アドミッションオープンを随時ホームページで確認しましょう。3年次になるまでに、過年度の出願スケジュールで自分のスケジュールを把握しておくことをお勧めします。出願計画を立てることが合格を掴むためのカギとなってきます。

3年次：出願

おおよそその出願計画を立てた上で、実際の入試要項やホームページを確認して、出願計画を確認してください。志望理由書やエッセイ、また推薦書を仕上げる計画が重要になります。同時に、2年間の学校生活を振り返りながら、自己分析をしてください。自分は将来どのように生きていきたいか、どのように社会と関わり社会に貢献したいのか、自分の情熱は何に向かっているのかなど10年先20年先の自分を想像してください。そのためには、まず大学で何を学び、自分のどんな強みを伸ばしたいか、さらに、それを学ぶために自分は今それに適した資質をどの程度持ち合わせているのかなど時間をかけてじっくり自分と向き合ってください。徐々に整理され、本当にやりたいこと、行きたい大学もはっきりしてくるでしょう。志望理由書や出願エッセイ等を仕上げ、推敲を繰り返し、完成させます。出願のプロセスは、非常に時間がかかり、精神的にも追い込まれることもあるかもしれません。早めに備えましょう。

2. 国内進学について

IB コースを選択して国内進学する場合、次のような選抜方法があります。

- A) 国際バカロレア特別入試
- B) 総合型選抜
- C) その他推薦入試
- D) 指定校推薦
- E) 一般選抜

A) 国際バカロレア特別入試

全国で 68 校の大学で IB スコアを活用した入試を行っています。(文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム事務局調べ・2021 年 12 月時点) 選抜方法は大学によって異なりますが、多くの大学で、EE や TOK の提出や CAS の活動報告が求められます。大学によっては、求める IB スコアの出願要件を満たす必要があるので注意が必要です。

B) 総合型選抜

志望理由書だけでなく、その他の提出する書類が多いことや、面接等も実施されることがあるため、入念な準備が求められます。

C) その他の推薦入試

東京外国語大学のように、帰国子女特別入試などを実施する大学の場合、国際バカロレアコースで資格取得見込みであれば、出願資格を満たします。志望理由書だけでなく、活動報告書等の提出がある場合や、面接も実施されることがあります。

D) 指定校推薦

IB の 7 段階評価を国際科の 5 段階国際科に換算して評定平均を出します。IB コースを区別しないものと、IB コースのみを対象とした指定校があります。大学側から提示される推薦基準を満たすとともに、本校独自の推薦基準もあります。

E) 一般選抜

日本の教育課程と国際バカロレアのカリキュラムは異なるため、一般選抜は IB コース生には不利に働くことが考えられます。一般選抜以外の入試方法をお勧めします。

A、B、C の推薦型が IB コース生としての学びをアピールすることができる選抜方法です。3 年間で培った資質、スキルを活かしていきましょう。国内の IB 入試は大学によって異なります。大学側の制度が確立していないこともあるので、学校、大学と連携して対応する必要があります。

なお、卒業後、いわゆる「浪人生」として、IB スコアを利用して受験する場合には、再受験をしない限り、一度取得したスコアは更新されないことに留意する必要があります。

3. 海外進学について

世界中の大学への進学が可能と言えます。海外の大学に出願するプロセスは国によって異なり、また大学によっても異なります。よく情報を収集し、適切に出願していきます。

英語圏の国への進学が多く、アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダが主流となります。ヨーロッパなど第一言語が英語以外の国への進学の場合、現地の言語力が求められることがあります。英語プログラムを実施する大学を選択して進学することもあります。

A) アメリカ

学力、課外活動、資質など総合的かつ、多面的に判断されます。面接がある場合もあります。大学によって出願エッセイ・推薦書が複数枚になります。高校での活動や成長、人物像が、容易に想像できるように執筆します。一般的な出願方法は Common Application と呼ばれるシステムがありますが、州によって独自のシステムを導入している場合があるため、志望大学の出願方法をよく確認する必要があります。

B) イギリス

出願する学部に関する課外活動や、その分野を学ぶための資質が評価されます。アメリカと異なり3年間で学位取得が可能なため、専門分野を学ぶ準備がどれだけできているかをアピールすることがポイントです。また、5校に同時に出願するため (UCAS 利用) 特定の大学の理由よりも、学部の志望理由とともに、イギリスを選択する理由を述べるのが一般的です。

C) オーストラリア

基本的には IB スコアで合否が決まります。出願と同時に奨学金の申請が行われます。出願は、「オーストラリア留学センター」等、オーストラリア政府認定の公式出願窓口を通して行うのが一般的です。無料相談を早めに受けましょう。

D) カナダ

大学により出願書類は異なります。IB スコアや成績証明書等の書類提出のみの場合、複数枚のエッセイ提出や面接が行われることもあります。大学が提示する締め切りより早く出願していくことが重要です。また、州によって出願システムが異なるため、州を跨ぐ場合には注意が必要です。

E) ヨーロッパ (イギリス以外)

CV (curriculum vitae) やエッセイの提出が求められることがあります。CV は履歴書に近く、バイトなどの経験も記載します。大学によっては、数学などの試験が別途実施されます。

海外大学へ出願する場合は、卒業するまでに進路が決定しない場合もあります。また、合否の結果通知が早い場合もあれば、最終的な通知期限ぎりぎりの場合もあります。焦らず、信じて待ちましょう。

海外大学に出願する場合の補足として、次の2点をあげます。

1. 英語の外部試験

大学は留学生に対して、一定の英語力を証明することを求めます。その英語力に達していれば、直接大学に入学することが可能ですが、English Bの履修者はTOEFLやIELTSのような外部試験のスコアにおいて、必要スコアに達していない場合、ファウンデーションコースと呼ばれる大学準備コースで英語力を伸ばす必要があります。英語に不安がある生徒にとって、ファウンデーションコースの存在は安心して海外に挑戦できます。ただし、1年程度を必要とするため、イギリス、オーストラリアともに、本来3年で卒業が可能ですが、卒業までに4年程度必要となります。

2. ギャップイヤー (Gap Year) の活用

海外の大学では一般的な制度として、ギャップイヤー (Gap Year) の活用を検討する場合があります。これは、大学が入学前や在学中に休学することを許可するもので、休学中にインターンシップ、ボランティア、留学など、さまざまな経験を積むために活用されます。大学から合格をもらったのち、その手続きを行うこととなります。検討する場合は、自分がなぜ休学をするのか、目的意識をもち、より充実した大学生活を送れるようにしましょう。

4. 併願について

併願を検討する際に、最も留意すべき点は、スケジュール管理です。最大で4つのスケジュールが同時進行で行われることを意識しましょう。出願する大学、国をどのように計画するかが成功のカギです。おおまかなスケジュールは次の通りです。

1. 国内 — 基本的に国内の出願は9月ごろを皮切りに11月ごろがピークになります。大学によって、2月ごろまで出願がある場合もあります。
2. 海外 — 国によってこととなりますが、翌年の秋入学を目指す場合、10月ごろから始まり、1月ごろまでがピークになります。例えば、国ごとの締め切りの目安は、アメリカの場合、早い出願は10月、通常は1月ごろ、イギリスのケンブリッジ大学・オックスフォード大学は10月、それ以外の大学は1月、オーストラリアは1月ごろ、カナダは最終的な出願が1月ごろです。
3. DP — プログラム (学校での課題等) のスケジュール、4・5月ごろにほぼすべての科目で内部評価 (IA) が行われます (詳細はDPハンドブック Assessment Calendarをご覧ください)。その後、国内の出願に活用されるMOCK1が実施されます。また、9月には全員が活用する重要なMOCK2が実施されます。11月にはいよいよ最終試験になります。
4. 奨学金 — 学生支援機構 (JASSO) の海外進学希望者向けの奨学金の申し込みを行う場合、9月から10月に申し込みを行います。具体的な留学の目的、将来の展望などエッセイが求められます。また、1次を通過した場合は面接も行われます。その他、国内で申請をする奨学金も同じような時期に選考が行われることが多いので注意しましょう。

A) 国内と海外の併願の場合

図1のように具体的な大学を少し提示して説明します。4月には、自己分析と大学・学部研究を本格化させていきます。一貫した学部への志望理由と将来の展望を固めていくことで、出願の締め切りが早い大学から順次エッセイの初稿を完成させると同時に、教員に依頼する推薦書の内容を検討する必要があります。

それぞれの締め切りに出願書類を間に合わせるためには、少なくとも初稿を2か月前までには仕上げることをお勧めします。しかし、イギリスは1月下旬が締め切りのため、2か月前は最終試験中になりますので、やはり夏には初稿を書いておけると安心だと思います。

エッセイと推薦書の執筆と同時に重要なのが、MOCK 1と2です。横浜市立大学に出願する場合、MOCK 1を活用します。東京外国語大学、上智大学、イギリスの大学はMOCK 2を活用します。つまり、両方のMOCKが出願に大きく影響するという事は、受験のピークが長いということになり、精神的体力的な負担も大きくなります。どちらのMOCKに重点を置くかということも、出願校を決める際のポイントと言えるでしょう。

MOCKで算出される見込み点によって出願できる大学が変わる可能性があります。自分の目指す大学のスコアに見込み点が届くように学習に励みましょう。

図1 国内とイギリスの併願（ケンブリッジ・オックスフォード大学を除く）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
横浜市立大学			エッセイ初稿			出願〆切					
東京外国語大学					エッセイ初稿			出願〆切			
上智大学							エッセイ初稿			出願〆切	
UK					エッセイ初稿					出願〆切	
DP	IA	IA	MOCK 1			MOCK 2		最終試験			
JASSO（海外向け）				エッセイ初稿			申込〆切				

B) 異なる国の併願

出願の準備における時間と労力という点において、複雑さは異なりますが、おおよそ、①アメリカ、②イギリス/カナダ/ヨーロッパ、③オーストラリアの3つのタイプに分けられます。①アメリカと②イギリス/カナダ/ヨーロッパの併願より、①アメリカと③オーストラリアの併願は比較的容易であると言えます。しかし、出願の複雑さよりも、自身が何をどこで学びたいかということが一番大事にして、出願先は検討すべきです。

図2はアメリカ(Common Application 活用による出願)の早期出願(early decision)、通常出願(regular decision)、イギリスの出願(ケンブリッジ・オックスフォード大学を除く)の出願締め切りを示します。アメリカの早期出願の場合、専願の扱いになりますので、出願には注意が必要です。アメリカの場合、出願する大学によって提出書類はかなり異なります。早期で決まらない場合に備えて、通常出願とイギリスの準備を同時進行で行います。図2のように、夏に初稿を書くことになるので、それまでに自己分析等を進めることをお勧めします。

図2 アメリカ(Common Application 活用)とイギリス(ケンブリッジ・オックスフォード大学を除く)の併願

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
US早期出願					エッセイ初稿			出願〆切			
US通常出願							エッセイ初稿			出願〆切	
UK					エッセイ初稿					出願〆切	
DP	IA	IA	MOCK 1			MOCK 2		最終試験			
JASSO（海外向け）				エッセイ初稿			申込〆切				

5. 奨学金について

海外進学の際に、最も多く聞かれる質問の一つに奨学金があります。一般的に国内大学に進学する場合、奨学金は給付型（返済不要）と貸与型（返済必要）に分かれますが、海外進学において奨学金(scholarship)は返済不要のものを指します。貸与型の場合は学費援助（Financial aid）と呼ばれ区別されます。

海外進学者向けの奨学金は大きく分けて2種類あります。

- ① 国内で申し込む奨学金
- ② 海外で申し込む奨学金

①国内で申し込む奨学金は、日本学生支援機構（JASSO）の国費による支援をはじめ、柳井正財団、公益財団法人グルー・バンクロフト基金、リクルートなどがあります。しかし、海外進学者向けの奨学金の競争率は高く、非常に狭き門になっています。

②海外で申し込む奨学金は、合格後に大学から提供される奨学金も含まれます。渡航前に、学費の免除率が提示されることもあります。また、在学中に成績優秀者に奨学金が出るケースもあります。大学ごと学部ごとに奨学金の内容も異なるため、大学選びの際に、留学生向けの奨学金の有無、学部ごとの奨学金の有無等は、大学のアドミッションに問い合わせましょう。

さらに、出願の際に、奨学金を申し込む場合には、提出書類が異なる場合があります。出願の際に、よく確認し、奨学金に申し込めるようにしてください。アメリカの場合は、奨学金を希望する場合としない場合で、合否に影響する大学もあります。ポリシーをよく確認しましょう。

奨学金以外にも、寮費などを免除してもらえる制度がある大学もあります。例えば、寮の管理人として、寮生をまとめるリーダーを引き受けると寮費の一部免除等がある大学があります。事前に、経済的な負担軽減について調べることで、海外進学における経済的ハードルをクリアできるかもしれません。

奨学金は、自分に該当するものを探し続け、アンテナを張っておくことが大事です。国内で申し込む奨学金だけでなく、進学後、大学で申し込む際にも、情報収集を惜しまないようにしましょう。

（参考）

海外留学支援サイト. (n.d.). 海外留学支援サイト. Retrieved June 24, 2022, from <https://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/>

6. 受験結果状況（14期生 IBコース生 令和4年7月4日現在）

【日本】（50音順）

大学名	選抜方法						
	指定校	IB入試		総合型・帰国等		一般	
		受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者
慶応大学				1			
國學院大学				1	1		
国際基督教大学		1				2	
芝浦工業大学		1	1				
順天堂大学				1	1		
上智大学		3	2				
西南学院大学		1	1				
筑波大学		3	1				
東京外国語大学		5	1				
東京学芸大学		1					
東京理科大学		1	1				
フェリス女学院大学				1	1		
法政大学		2	1			2	
武蔵野大学		1	1				
明治大学						3	1
横浜市立大学		6	3				
立命館アジア太平洋大学		2	2				
早稲田大学		1		1		2	

【アメリカ】（アルファベット順）

大学名	受験者	補欠	合格者
College of The Desert			1
Columbia University	1	1	
Cornell University	1		
DePauw University	1		1
Diablo Valley college	1		1
Drake University	1		1
Harvard University	1	1	
Howard University	1		
Knox college	1		1
Michigan state University	1		1

Muhlenberg college	1		1
Oberlin College	1		
Ohio state University	1		
San Francisco State University	1		1
San Francisco State University Bakersfield	1		1
San Francisco State University Dominguez Hills	1		1
San Francisco State University East Bay	1		1
San Francisco State University Fullerton	1		1
San Francisco State University Long Beach	1		1
San Francisco State University Northridge	1		1
Stanford University	1		1
Stony brook University - State University of New York	1		1
University at Albany - State University of New York	1		1
University of Rochester	1		

【イギリス】（アルファベット順）

大学名	受験者	合格者
Arts University Bournemouth	1	1
Goldsmiths, University of London	2	2
Imperial College London	1	
Kingston University London	1	1
Queen Mary University of London	1	1
Royal Holloway, University of London	2	2
The University of Sussex	3	3
University College London	1	1
University for the Creative Arts	1	1
University of Edinburgh	1	1
University of Oxford	1	
University of the Arts London	1	1
University of York	1	1

【オーストラリア】（アルファベット順）

大学名	受験者	合格者
Adelaide University	1	1
Monash University	1	1
New south wales University	1	1
Queensland University of Technology	2	2
RMIT University	1	1
The University of Adelaide	1	1
University of Technology Sydney	1	1
The University of Melbourne (2023年1月入学)	結果待ち 1	

【カナダ】（アルファベット順）

大学名	受験者	合格者
Simon Fraser University	1	
The University of British Columbia	2	
University of Toronto	2	

【スウェーデン】

大学名	受験者	合格者
Karolinska Institutet	1	

【オランダ】

大学名	受験者	合格者
University of Amsterdam	2	1

【マレーシア】

大学名	受験者	補欠
Monash University (2023年2月入学)	結果待ち 1	

7. 卒業生から在校生へのメッセージ

● 筑波大学/ 社会・国際学群/ IB 1期生

IBを利用して国内の大学を受けた経験から、入学してから進路実現のためにやっておくべきことは主に4つあると実感しました。

まず一つ目はEEの完成度をなるべく上げること。国内のほとんどの大学ではEEの要約や本文の提出が求められると思います。EEが高校生活の取り組みとして評価される場面は私たちが考えるより多く、面接もEEでの失敗や研究の経緯などが軸になります。大学に出願するにあたって、自分がなぜその分野を勉強したいと思うのか、どれだけの情熱を持って取り組んできたのかをアピールすることが必要です。それを証明するためのトピックやRQが選べると、執筆のモチベーションという面でも、志望動機との一貫性という面でもEEは皆さんの強い味方になってくれると思います！

二つ目は早い段階で英語の外部試験を受けて、なるべく志望大学の条件を満たしておくこと。3年生になってから迫ってくるIAの執筆やMOCKの勉強は想像以上に過酷です。英語の外部試験との両立は段々と難しくなってくるので、後回しにせず早い段階から受けられるといいと思います。2年生から定期的に受けて、遅くとも3年生の夏休みくらいまで必要な点数を満たせるとよかったかもしれないと反省しています。また、筑波大学の国際総合学類では予告なしで英語面接が始まります。TOKエッセイやEEについて即座に英語で話せる程度には鍛えておきたいところです！こういった場面でも英語外部試験の勉強は力になるかなと思います。

三つ目は、大学で勉強したい分野の現状を徹底して理解すること。他もちろん大事ですが、個人的にはこれが一番直接的に合格につながったのではないかと考えています。私の場合は国際関係に携わりたいと思っていたので、時事問題が当てはまるでしょう。私は昔から興味があった日韓関係について学びたいという志望動機を掲げていました。それに対し、現在の米中対立の観点やそれぞれの国の国民感情から日韓関係の重要性やアプローチの方法などについて面接で聞かれた記憶があります。普段から時事問題に関する様々な視点からのジャーナルを読んだり、直接情報を収集したりすることが面接においても力になると思います。また、少し言及しづらい問題ではありますが、多くの国際的な問題がそうであるように、特定の話題に触れること自体を不愉快に思う人は必ずいると思います。論争になり得るからかもしれませんね。当たり障りのない伝え方は避けるべきですが、あまりにも思想を前面に出してしまうと、ポジティブな印象には繋がりにくいと思っています。自分が受ける大学は世界の様々な問題にどのようなスタンスでいるのか予め調べておく必要があると思っています。それについては、関連する学部のゼミに所属する先輩方がどのようなトピックの論文を書いたのか、どういった講義・教授が多いのか、そして受けてみたい授業のシラバスを参照することをお勧めします。携わりたい分野の現状を知るという意味でも重要だと思います。

最後に、出願期間をしっかりと確認しておくこと。当たり前ですが、国内の大学はまだあまり国際バカロレアに対する理解度が低いいため、最終試験期間中にしつこく出願を被せてくる感じがややあると感じました。筑波大学の場合、志望理由書だけではなくコア科目全ての要約と原本の提出が求められます。先生に数回添削してもらって期間まで想定してなるべく早めに出願準備に取り組みましょう。遅くとも9月くらいからコツコツ書類準備を始める必要があります。出願のせいで最終試験の勉強ができなかったということがないように、しっかりスケジュール管理をしてほしいなと思います。

普段の授業をしっかり聞くことやモックで高い点数を目指すなどの当たり前のことは、恐らく受験する側の皆さんが最も意識しているはずなのであえて言葉にはしませんが、この文章で述べた4つ以外にもたくさん気

にすべきことがあると思います。辛い時期になるとは思いますが、皆さんがどうか学びたいことを実現できる環境に身を置くことを祈っています。がんばれ！

● 東京外語大学/ 言語文化学部/ IB 1 期生

① 入学してからの活動で進路実現のためにやっておいたほうがいいこと

入学してから、可能であれば2年生のうちに英語の外部試験（TOEFL や IELTS など）を受けておいた方が良いでしょう。IB 選抜出願に英語資格が必要な場合が多く、大学や学部によってはかなり高いスコアを求めるところもありました。私は3年生になって、MOCK の準備などでバタバタし始める頃やっと英語資格を取ろうとしていたので、本当に忙しく後悔しました。志望大学の出願要件を満たすスコアがとれたのもギリギリで、出願に間に合わない可能性もあったと思います。

早めに英語の外部試験の準備をしていれば、試験に慣れたり、自分に合う試験を把握することもできて、高スコアも取りやすくなり、入試でも有利になると思います。そして何より、十分なスコアが2年生のうちにとれていると、3年生で他の勉強や出願準備に余裕ができて安心だと思います。

② 提出書類準備（志望理由書、TOK、EE、CAS など）

大学が求める書類の量や内容、先生方からフィードバックをいただいて修正することなどを考慮して、余裕をもって取り組めるように計画することが一番大切だと思います。IB 最終試験近くに出願がある場合は特に気を付けて計画をしないと、試験の勉強と折り合いを付けながらどちらにも力を入れて取り組んでいかなければならないのがとても大変でした。

内容面に関しては、面接がある場合は提出書類に書いた内容に対して突っ込んで質問されることが多かったため、書類上でも面接でもアピールできることを意識して書いていくと良いと思いました。それから、実際に入試の面接の時に指摘されたり、こうした方が良かったかもしれないと感じたのが、誰が読んでも同じように理解できるように書くことです。例えば、IB 選抜だとしても、中には TOK や EE、CAS といった IB 用語を知らない大学の先生が読むこともあるので、EE なら課題論文などと言い換えて書き込んだりすると無難だと思います。

③ 面接対策

面接でよく聞かれる質問を調べてピックアップして、それに対する答えをある程度用意して置いたり、出願の時に提出した志望理由書などを覚えて、それに関する質問がされた時に対応できるようにしたりして対策しました。

先生方と面接練習する際には、複数の先生と練習する機会があるとより良いと思います。違う先生に面接練習をしてもらうと、また違った視点から質問されたりするので新鮮で、本番で予想外の質問が出た時に対応する力が付くと思います。

① 受験計画を立てる上で意識したこと

受験計画を立てる上で私が意識したことは、自分の特徴をしっかりと理解した上で取り組むことです。受験計画は大きく分けて学習計画と進路の計画がありますが、どちらの観点からも自己理解をすることは非常に重要になります。学習的な側面においては、自身の得意・不得意科目を知ることはもちろん、どのように勉強することが自分にとって一番有効かを考える必要があります。私自身 MOCK 1、MOCK 2 とともに化学と数学のスコアで伸び悩んでいました。ただ、自己分析をして勉強法を改めることで、両科目とも最低スコアから倍以上のスコアを得ることができました。進路観念の例としては、自分の実力を理解して出願校を選ぶということが挙げられます。私は IB を利用した入試で 4 校受けましたが、そのうち MOCK 2 を利用した入試ではすべての大学に落ちました。この結果の背景として、自分のスコアを理解せず高望みをしすぎたことが挙げられます。もちろん IB スコアを用いた入試のボーダーラインを見極めることは難しいですが、しっかりと自分の実力に見合った大学に出願する必要があったと考えています。この結果を踏まえて改善したところ、最終試験のスコアを用いた受験では全て合格することができました。

これらはいくまで一例ですが、僕は 3 年生の夏まで自分のことをあまり理解せず受験計画を立てていたため、数多くの苦い経験をしてきました。ただ、IB 入試を用いて国内進学を目指す人は、より気をつけなければならないことがあります。それは、最終試験の日程と大学出願の時期が被ってしまう場合があることです。国内大学に出願するにあたって、多くの場合志望理由書等の提出が求められます。その準備期間を十分に設けなければ、最悪の場合最終試験の期間とかぶってしまうため、注意して受験計画を立てる必要があります。

② 提出書類準備（志望理由書、TOK、EE、CAS など）

IB を用いた入試形態では、ほとんどの場合志望理由書の提出を求められます。志望理由書を書く上で、

- ・ IB での体験談や成長を絡めた志望理由
- ・ 将来の展望
- ・ 培った自身の能力をどう活用して大学に貢献するか

の 3 点に着目すると良いと思います。自身の経験から、なぜその大学に志望するのかということだけではなく、自分が体験したことやスキルなど、他の人とは違った一面を上手く表現することが重要だと考えています。

私が受験した上智大学、東京理科大学や法政大学などでは、志望理由書に加えてコア科目（EE、CAS、TOK）での活動の要約が求められる大学もあります。大学によって文字数は異なりますが、指定された範囲内で活動内容や培った能力をわかりやすく書く必要があります。また、受験する大学によってどの活動をより強調するかを考えることが重要です。大学の教育理念や自身の志望理由書と照らし合わせて要約を書くことを私は意識しました。これらの書類を提出する前に、必ず先生や家族などの他者に添削してもらうことをお勧めします。志望理由書などでは、自分とはどういう人間なのかを書く場でもあります。自分について表現しようとしすぎるあまり、内容が主観的になり過ぎてしまうことがありました。もちろん主観を交えて書くことも大事ですが、客観的に自身を分析することも重要です。そのため、しっかりと自分以外の視点も交えて書いた方が良いと思うとともに、添削に時間を費やすためにも、十分な余裕を持って書く方が良いと思います。

① 提出書類準備（志望理由書、TOK、EE、CAS など）

志望理由についてですが、基本的には、自分の将来の夢を示す→そのためにはどんな力を伸ばしたいのか示す→志望している大学でそれらの力を伸ばせるということを示す、という流れが書きやすいと思います。例え将来の夢などが特に決まっていなくても、将来の夢を（志望理由のために）仮に設定して書き進めるということを私はおすすめします。大学は、受験生が入学後どのように大学に良い影響を与えてくれるか、成果を挙げてくれるのかを見ています。将来の夢を明確に持ち、大学で何をしたいのか明確な方が大学に好印象を与えられます。また、志望理由書で将来の夢について言及する際は、学部で学べる内容と将来の夢がかけ離れすぎていないか注意が必要です。面接で「○○○になりたいのなら□□学部の方が良いのではないですか」などと聞かれたりしてしまいますので、将来の夢や伸ばしたい力と学部で学べる内容については慎重に考えてみてください。

また、大学で開講されている講義や研究などに言及することは大切だと思います。大学入学後の見通しを持っていると印象づけられるからです。例えば「自分は～～に興味があるので1・2年目ではそれに関する法について学び、3年目からはそれらの知識を活かして～～を…の観点から研究していきたい」のように長期的な計画を示すもの効果的だと思います。抽象的になりやすいので実際に開講されている授業の名前や講師の名前を出すと良いと思います。

準備期間についてですが、遅くとも出願開始の1ヶ月前から準備を始める必要があると思います。国内の大学は手書きで出願書類を作成するところばかりなので、思っていた倍以上作成に時間がかかることもありました。Wordなどで書類を作成し、添削をさせていただいて完璧な状態にしてから手書きで清書をするというのが効率的かと思います。また書類を郵送する場合、必着や消印有効などにも注意する必要があると思います。そのため親、先生とのスケジュール共有を徹底することが大切だと思います。

② 面接対策

面接官は基本的に志望理由書を見て質問してきます。志望理由書と面接で言っていることが違いすぎると不自然ですので、志望理由書は郵送する前にコピーを取って面接に役立てるべきだと思います。

ほとんどの大学では最初に志望理由を訊かれます。そのため簡潔に説明できるよう事前に準備をしておく方が良いと思います。

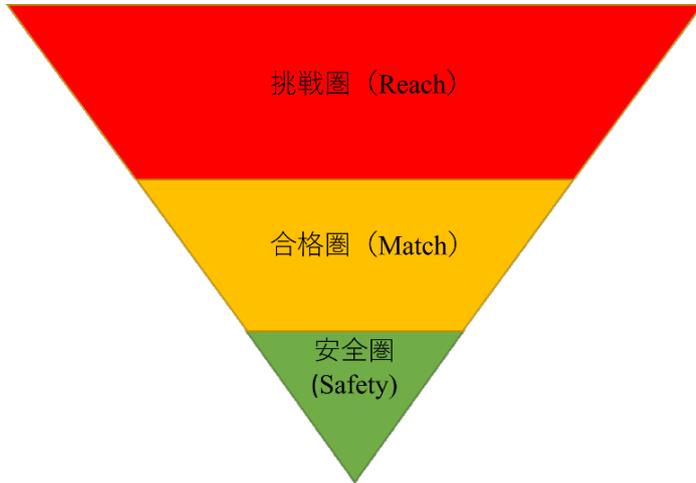
また、将来の夢についてよく知ることが大切だと思います。「～～～（職業名）の採用試験ではどのような事が問われるかご存じですか」と訊かれたことがあります。なりたい職業に採用試験などがあるなら、調べておく必要があると思います。

大学によっては、面接官がIBのことをあまり知らないこともあるようです。極端な場合CASとは何なのか、TOKとは何なのか説明を求められることもあります。またなぜIBに入ったのか訊かれることもあります。そのためIBについて、また自分が今まで何をしてきたのかよく整理しておく必要があると思います。

とにかく面接では自分がこれまで何をしてきたのかと、これから何をしていきたいのか訊かれます。まれに返し方に困るような質問をされたり無愛想すぎる態度を取られたりすることもあります。自分を強く持ち頑張ってもらえたらと思います。

合格のチャンスを最大限にするための数学的な戦略

合格の確率を上げるための全体的な戦略としては、**逆ピラミッド戦略**をとった。つまり出願する大学の数が、難易度の高い Reach 校、合格の確率が中くらいの Match 校、ハードルの低い Safety 校の順に多いよ



うに意識した。こうすることによってトップ校の 1 つにでも受かる可能性を最大限にするとともに、どこにも受からないリスクを最小限にした。

コロナの影響について

2020 年と 2021 年のパンデミックにより、大学での席を維持しながらも入学を延期する人が多数いた。また、以前は必須だった SAT・ACT の受験が多くの大学でオプションとなったことにより、これらの大学への出願者が大きく増えた。影響として、2022 年のアプリケーションサイクルではたくさんの大学の合格率が例年より一段と低くなる現象がみられた。

スムーズに受かると思った Safety 校から落ちたというような話も聞く。コロナの影響が続いている期間中は普通より多めの大学に出願することが望ましいかもしれない。

高校に入学してからの進路実現のための活動

イギリス：出願の際は、Biology や International Development など、決まったコースにアプライする人が多い。高校で特定の教科や IB スコアをとることが求められることもあるため、早い段階で希望大学をリサーチし、**出願条件を把握**しておくとうい。

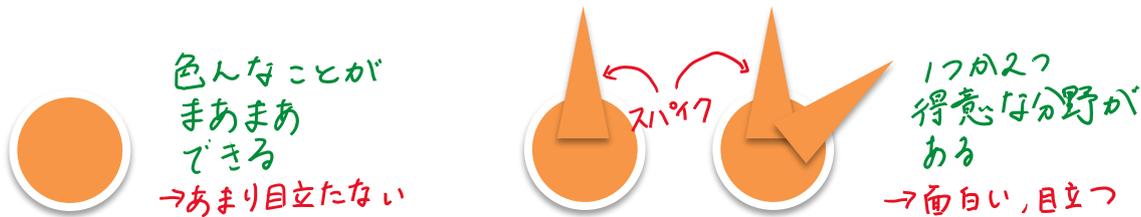
課外活動に関しては、アプライする**コースに関連する活動**にたくさん取り組んでいると、情熱があると見られやすい。例えば生物学コースに出願する場合、ピアノが弾けてもあまりプラスにはならないが、生物学オリンピックに入賞したのであれば生物学に熱心であるととらえられ、合格の可能性が上がる。課外活動と聞けばボランティア、科学・数学オリンピック、研究・芸術コンクールへの出品などが身近に思い浮かぶが、コースに関する論文や本を読んだり、レクチャーを聞いたりすることも立派な課外活動。特に読書は学校の課題が多くても電車の中や休み時間にできる活動なので、忙しい高校 3 年のときにおすすめ。

アメリカ：1 つのコースにアプライするわけではないので、課外活動はイギリスほど 1 つの科目に集中しなくても大丈夫。ただ、知名度が高く毎年大量の出願者がいる大学にアプライする場合は、自分のアプリケーションを他から目立たせることが課題となるため、課外活動を工夫する必要がある。英語に、

“A Jack of all trades is a master of none.”

というイディオムがあるが、訳すると「あらゆる職業に手を出す者は、そのいずれにおいても秀でていない」という意味。つまり、まあまあできることがたくさんあるより、すごくよくできることがいくつかある方がいい。形にたとえると、きれいな丸い円ではなく、とげ(スパイク)のついた円を目指すといい。**自分のスパイクは何か**を早めに認知できれば、それをテーマにした活動をたくさん計画できる。だから専攻は決めていなくても、自分の興味や好きなことを振り返り、課外活動に持ち越せる 1 つか 2 つのテーマを選ぶことがおすすめ。

(スパイクについて詳しく：[How to Get into Harvard and the Ivy League, by a Harvard Alum](#))



それぞれの大学のカルチャーを把握していると、アプリケーションをどのように組み立てるのかのヒントにもなる。同じトップ校でも、求めている生徒像が少しずつ異なる。例えばスタンフォード大学は興味が非常に偏った人が好きだったり、ハーバード大学はリーダーシップを重視していたり。大学のホームページから読み取るのは難しいが、その大学に通っている生徒の YouTube ビデオなどを見て雰囲気をつかむといいかも。

共通：推薦書はアプリケーションの1部としてとても重要。推薦書を書いてもらう先生に、**学びに熱心で積極的**であることを示さなければならない。意識的にできることは例えば：

- 授業前後やすれ違った場合にあいさつをすることで、先生と良好な関係を維持する
- 深みのある質問や発言をする（深みのある＝思考の深さを暗示する）
- 理解できないことがあったら迷わず質問する
- 成績が伸びない場合、自ら先生に相談することで勉強に前向きな姿勢を示す

サプリメントエッセーについて（アメリカのみ）

全ての大学に送る Personal Statement に加え、出願者の興味・性格・考え方を知る目的で追加のエッセーを求める大学もある。プロンプトは例えば：

A hallmark of the Columbia experience is being able to learn and live in a community with a wide range of perspectives. How do you or would you learn from and contribute to diverse, collaborative communities?（コロンビア大学）

Virtually all of Stanford’s undergraduates live on campus. Write a note to your future roommate that reveals something about you or that will help your roommate – and us – get to know you better.（スタンフォード大学）

"Do you feel lucky? Well, do ya, punk?" - Eleanor Roosevelt. Misattribute a famous quote and explore the implications of doing so.（シカゴ大学）

非オーソドックスなスタイルで答えることができれば、アプリケーションは目立ちやすくなる。自分の中のリスクテイクを活かし、主流とはちょっと違った回答方法を考えてみては？

出願時に奨学金を求めるか否か（アメリカのみ）

アメリカの大学のアドミッションポリシーは、出願者の経済支援のニーズを視野に入れるかに基づいて2通り存在する：

“Need-blind” →入学した場合に大学に奨学金を求める・求めないに関係なく合否を決定する。

“Need-aware” “need-sensitive” →入学した場合に奨学金を求める・求めないを視野に入れて合否を決定する。奨学金を求めてアプライするのであれば、奨学金の提供で大学が受ける負担を上回るほど優秀な出願者でないと、合格する可能性が下がる。

国内と海外の出願者とでポリシーが違う大学もある。例えばスタンフォード大学はアメリカの出願者に対して need-blind だが、海外の出願者に対しては need-aware の体制をとる。

Need-aware の大学に奨学金を求めるかは、自分の経済状況、大学以外の団体による経済支援の有無、成績と課外活動を含める自分のアプリケーションがどの程度優れているか（すなわち大学が自分をどの程度欲しがるか）を、大学のポリシーと一緒に考えて決定する必要がある。

● The University of Sussex サセックス大学/

International Relations and Development BA (国際関係・開発) / IB 1期生

私はこの秋からイギリスのサセックス大学（以下S大）で新しい人生の一步を踏み出します。今回は、IBを終えて充実した毎日を送っている私から、皆さんにエールを送りたいと思います。志望校を決定するプロセスとして私がお勧めしたいのは、まず、学びたい「学部」から決めるということです。

有名大学に憧れを感じ、最初に国や有名大学を選ぶ人が多いのではないかと思います。しかし、それらを最初に考える欠点として、視野が狭くなるという課題が発生してしまうと思います。例えば、アメリカの大学を考えていると、オランダの大学は視野に入らない、みたいなことです。そのため、どの大学に入りたいかを決める前に、大学で何をしたいか、大学に入る意義を考えることが大切です。将来何をしたいのか、そのために何を学び、経験するべきかを考え、その後、それらを達成するためにその大学は有益なのかを考えてみてください。

現代は「大学に入ること」がゴールと捉える人が多いと思いますが、私は、大学はあくまで夢や目標を達成するための通り道に過ぎないと考えています。私の場合、将来は世界で起きている問題の解決に貢献したいという目標を持っています。そこで、社会的、生物的、倫理的側面などが複雑に絡み合う世界問題を、広い視点で各分野の相互関係などを深く学ぶ必要性を感じたので、そういった機会が得られる大学があれば入りたいと思い、調べ始めました。すると、まさにグローバル問題について研究する「国際開発学」や、政治的側面や外交的側面など、世界の国々の相互関係を学習する「国際関係学」の存在を知りました。

「学部」から「国や大学」を知るプロセスの利点は、学部から調べることで、その学部に優れた国や大学について効率良く知ることが出来ることです。つまり、より質のよい学習環境を追求できるということです。同じ大学でも学部によってランキングが異なるように、評価が良い大学が、必ずしも全ての学部で質の高い学習を提供している訳ではないということです。だからこそ、「学部」から調べるのが重要なのです。

私の場合、学部の調査を進めていくと、特に国際開発学に関しては、イギリスの開発研究が世界でも優れており、教育の質だけでなく、その質を求めて世界から同じような志をもった学生が集まるという情報を発見しました。大学によって学習内容や方向性は異なりますが、この情報を得た時点で、世界中の国の中からイギリス一国に、心は決まったような気がします。こうなれば話は早かったです。この時点で大学に対する候補はかなり絞られているので、大学の学習内容をひたすら調べて、「想像するだけでワクワクする！絶対にここに合格したい！」と心から思えるところを見つけました。それが、S大が提供する国際開発学関連の学部です。

私が皆さんに大切にしてほしいのは、この「ワクワク」です。大学のランキングが頭から離れない人もいますが、将来「私の大学はランキング__位だった」という話よりも、「こんな仲間とこう研究して～」と語れる将来が見えるような大学を選んだ方が、大学を学習と経験の通り道として本当に活用できると思います。実は、進路希望調査の時「イギリスは第五希望までしか出願できないので、S大一校から複数の学部を出願するのではなく、代わりに志願大学を増やしてください。」と先生方からのアドバイスもありましたが、結果的に一歩も譲れず、S大の3つの学部に出願をしました。これは、どう考えても「ワクワク」が譲れなかった結果だと思っています。

しかし、こんな大掛かりなことを忙しい最中に行うのは大変だと思います。私の場合、出願期間が早い大学は出願の候補に挙がっていなかったため、大学調査とエッセイは全部、最終試験後に本気を出すと決めました。そうしたほうが、試験も終わってもう一度冷静に自分を見つめ直せると思ったからです。結果、これが大正解でした。エッセイも最終試験前に仮提出したものより圧倒的に良く書くことが出来ました。また、出願もゆっくり時間をかけて慎重にできたので、安心感もありました。人によっては、私とは事情が異なる人がいると思いますが、同じ境遇の人には全力でお勧めします。

最後に IB 経験者として皆さんに送れるアドバイスは、欲が出て、娯楽で現実逃避をしたくなったら、それは IB 最終試験が終わった後にやると心に誓うことです。忙しくて苦しくて楽しくなくなると「ああ～〇〇やりたい！」と娯楽を求めがちですよね。その娯楽、メモして保存しておきましょう。IB が終われば、想像以上に時間があります。海外進学者ならなおさらですが、やりたいことは、多分ほとんどできます。なので、そんな幸せな時に、悔いが残ってしまわないように、IB に奮闘中は「浮かんでしまう幸せな娯楽は後で思う存分できる！」という希望をバネに、歯を食いしばってでも、前向きにゴールを目指しましょう！応援しています！

● San Francisco State University サンフランシスコ州立大学/
Communication Studies コミュニケーション学/ IB 1 期生

① 大学情報収集

まずは、広く浅く調べていって良いと思います。検索エンジンで日本語でも英語でもいいので「〇〇（自分の興味のある分野）に強い大学 国名」と調べても良いし、調べ方は様々です。

ある程度気になる大学をリストアップ出来たら、そこから各大学のホームページを見ていきます。大学の校風やオファーしている授業、学校の雰囲気を見ることができます。

もし自分なりに条件を設けている（地方の大学が良い、学費が高すぎない方が良い）のであれば、その条件も検索ワードに取り入れると良いと思います。大切なのは、たくさんある大学の中から自分のときめく学校を絞ることです。私も最初は「こんなにもたくさんの大学があるのにどうやって志望校を決めるんだ！」と悩みに悩みましたが、自分のなかで；

- ・カリフォルニア州の大学
- ・学費が私立大学のように高くない大学
- ・culturally diverse な大学

のように、条件を設けたことで一段と大学探しがやりやすくなりました。最低 6 校（reach, match, safety 各 2 校）はあると安心です。多すぎるとその後の出願が大変なのでほどほどに。

② 出願のプロセス（②、③はカリフォルニア州立大学を中心に書いていきます）

私が志望した大学計 7 校はすべて「CSU（カリフォルニア州立大学、以下 CSU）」という総合州立大学システムに登録されており、「Cal State Apply（以下 CSA）」というシステムを通して一気に初期出願が行えます。自分の個人情報や英語外部試験の点数など必要情報を入力することで、CSU に所属している大学の中で自分が出願したい大学にその情報を一気に送ることができます。

しかし！ここからが少し大変です。ここからは CSA を通してではなく、各大学とのやり取りになります。大学側からメールが送られてきて「〇〇と××を PDF でこのリンクを使って送ってください」や「これは郵送で送ってください」などと必要書類の提出方法を指示されます。

ここで大切なのは、「なんだこれ！無理です！」と布団にうずくまるのではなく、きちんとメモに書き出して、やる事リストにまとめることです。情報が分かり次第書き出していっていくと後がとても楽になります。

気になることがあったり、心配なことがあったりしたらすぐに！メール/電話しましょう。そうなんです、電話しか受け付けないというアナログな大学もあるんです。でも聞いたほうが安心感増します。大学側も、追加書類が必要な場合はメールを送ってきますが、自分でも必要書類が何なのかを確認しておくが良いです。

③ 出願のタイミング

私の場合、出願はFinal Exam後からスタートしました。Final後のほうが出願に集中できます。CSUは10月から出願が可能です。11月末までには初期出願(CSAを使った出願)を終わらせ、遅くとも必要書類提出は1月中旬まで(できれば年内)に終わらせられると安心できます。ただ、impacted major(競争率が高い専攻)は早めの出願をした方が良いです。Impacted majorsはCSUならCSAから検索可能です。とにかく出願に携わっている先生やご両親などとコミュニケーションを頻繁に！とりながら進めてください。そのほうが確実にうまくいきます。

最後に

外部試験は計画立てて早めに受験したほうが良いです！受験に緊張と不安はつきものなので、困ったら周りに助けを求めることも躊躇しないことです！終わり！！

● University of the Arts London ロンドン芸術大学/

foundation Diploma in Arts and Design 芸術デザイン/IB 1期生

① 最終試験受験計画を立てる上で意識したこと

正直、3年生になって復習するのはめんどくさいので、コツコツやるのが一番です。でも全教科コツコツやっていたら3年になる前に死んじゃうので、1か2教科やっておきましょう。例えば、僕は生物、歴史、化学が好きだったので、実質復習し直すのは、数学だけにしていました。そうすると1~2教科だけやり直すことになり、少しは気分が楽になります。統計から判断しても、7をとるのは難しく、重要なのは5を6に上げることです。HLで6点取れば拍手。なので、HLの科目もしくは、苦手な教科に時間を全振りしていました。

② 入学してからの活動で進路実現のためにやっておいたほうが良いこと

美大、一般大学、就職、放浪するにしても、ポートフォリオ制作、課外活動は重要です。どんな人も自分は何者かの裏付けが、課外活動になると思います。IBを終えること+αの何かが必要です。そのために、課外活動は自分の好きなことを、社会的で客観的な評価がある活動？をしたほうが良い。いろんな活動をしている上でようやく自分の関心を知っていたり自己分析ができると思います。賞とかとつとけば奨学金の申請にも使える。IBだけでも十分しんどいと思うけど、視野を広く！

③ 出願のプロセス

右は出願プロセスの一例です。(絶対に参考にしないでください。)イギリスはRolling admissionがとられているため、出せば早く出しちゃっていいと思います。ポートフォリオ(自分の作品集)は、YISのIBは美術がないため、苦勞すると思います。美校に入るのも一つの手です。理想は、9月頃完成かもしれません。

ポートフォリオをつくる上では自分のテーマを言語化して、それに基づいて幅広く表現することがいいと思います。(作家性みたいなどころです)僕の場合は絵、塑像、洋

月	したこと
7	進路確定
8	ポートフォリオ始動(〜3割ぐらい) エッセイの本を読む、言いたいことをリストアップ IELTSのスコア取得 たまに最終試験の勉強(覚える系)
9	推薦書の依頼(書いてほしいことをリストアップしておく)と良 ポートフォリオ5割完成 最終試験の勉強ちょっと(実践系)
10	日本語版エッセイ書き上げ〜完成 ☆最終試験の勉強(結構ガチ)
11	最終試験 推薦書の完成 エッセイ英語版完成 ポートフォリオガチガチにやる
12	ポートフォリオ8割ほど完成 エッセイ、推薦書、IBスコア、IELTSの点数をエージェントに提出
1	ポートフォリオ仕上げ⇒メールで通知するので、提出 面接対策 合否発表

服、写真などを入れました。一貫したものが様々な形で派生していると、ポートフォリオ全体でみる時、一貫性があり見栄えがいいです。短期間でテーマを絞る方が、アイデアがよく出てきます。あくまで受験対策ですが。制作過程で、とにかく言語化してから表現した。多分これイギリス式なのでおすすめです。あと、人に見せてプレゼンもしましょう。面接に役立ちます。勉強は、時間がかかるので、7,8月から暗記系のものを覚え、9月から過去問など実際の問題を解いて、傾向をつかむ。その際に、答え合わせの答えなどを覚えちゃうのがおすすめです。インプットとアウトプットを同時にやる感じです。

④ 面接対策

志望動機などよく聞かれるような質問や、学問に対する目的意識と、関心は事前に言語化してクリアにした方がいいと思います。あとは、IBみたいに思考力を聞かれるので、その教科に対する包括的な知識を持っておくといいです。(僕の場合は、自分の作品をどう展示する?みたいなことだったので、なんとなく curating について聞かれている感じありました)

⑤ エッセイの準備

イギリスの場合は、アカデミックであることが重要ですので、本や記事を読みましょう。行きたい大学の教授が出版した本とかを読んで、間接引用があつたりするとすごくいいアピールになると思います。主張は「この学問を学びたいんだ!」ということで、課外活動の内容、やって思ったこと、本を読んで思ったことでその主張をサポートする感じです。英語が母語でなければ、日本語で書き上げて翻訳した方が効率的です。

各教科の勉強方法：受験計画じゃないんですけど、もしよければ、。

日本語

EA→多分、毎回毎回書いていたら、時間ももたないないので、問題を見た後、時間を決めてブレインストーミングをする。みたいなことをいろんなパターンの問題で行っていました。後は、回答する言い回しのバリエーションを増やすなどしていました。「どのような効果を齎すか」に対して、「〇〇な効果をもたらす。」だけではなく、色々な書き方で答えられるようにしていました。

IA→あまり記憶にない、、。でも、作品体系についてはすごく言われていたので、調べたり言語化していました。非文学の作品体系も確認して、答えられるといいと思います。たくさん練習しましょう。

English B

EA→試験前は、1日1長文は絶対やっていました。ネットにあるIB用の長文を解いた方がいいです。なぜなら、IBのreadingは少し答え方に慣れが必要であるからです。あとは、ひたすらIELTSとかの勉強も兼ねて語彙をふやしたり、ポッドキャスト聞いたりしていました。

IA→授業中のノートを参考にして、本番よりもさらに細かいブレットポイントで、ドラフトをつくりました。書き出していると、主張が論理的であるか、どの部分からそれが言えるのかを確認します。ただ、セリフのようにして覚えることはあまりお勧めしないです。表現力があつた方がいいと思うので。あとできれば、主張に関連したGIとか見ておくといいのかもしれないです。

歴史

EA→paper1は、いろんな過去問解いて、答え方の傾向を掴んだ方がいいです。最悪、最後のエッセイは知識ゼロで書いても、書き方によってはいい点くれたりするので、

Paper2 は、歴史の年表にどんどん書き込んでいく形で、勉強していました。

IA→あんまり記憶にないです。一次資料を読んだ方がいいです。できれば。あとは、たくさん考えて、引用と主張の混同に注意して書けばいいと思います。「もしこうじゃなかったら、」みたいなことを考えてみれば、自然と批判的主張が含まれた文になるのかも、？

生物

EA→自分はまとめを作って対策していました。まとめを作るのが面倒な人は、指導の手引きにある understadings とか一覧を見て、オレンジ、紫、緑の部分などを全て覚えるようにすると効率的です。あとは、ひたすら問題を解いて、答えをどんどん覚えた方がいいです。生物は、覚えた方が早いです。考えるのは、paper2 の最初だけ。

IA→観察するものが多い実験の方が良いです。例えば、植物の成長具合だったら、根、葉、水分量、茎、などなどたくさん調べることがありますが、酵素の実験のように発生する機体の量であると、一つです。このような一つしか結果が無い実験だと、失敗した時にメンタルやられるし、詰みます。実験を始める前に、必ず2～3つの先行研究を用意しましょう。印刷して、引用するところをハイライトして、先生に見せたりしてもいいのかもしれないです。

また、言い方を変えれば何とかなることもあります。「植物にカビが生えたため、実験を中止した。」⇨「成長の初期段階を計測することとした。」ものは、いいようです。

数学

EA→とにかく問題を解いていました。あとは、各章のまとめ問題みたいなのをといて解きかたを覚えるって感じです。質より量。

IA→あんまり記憶ない。でも、数学は、日常レベルのことと繋がりが深いので、比較的先行研究をみてやりやすいと思います。困ったら確率とか統計がいいです。実験するのもあります、。

化学

EA→ほぼ生物と同じです。ただ、生物と異なる場所としては、化学はどんどん問題をといた方がいいと思います。ほとんど数字や聞かれていることが若干違うだけで、プロセス的には似ている部分が多いです。そのため、量をといてパターンを記憶するみたいな感じです。

IA→ほぼ生物と同じです。特に HL は、HL の範囲から選ばなくてはいけないので、自分たちができる範囲まで落とし込めるまで、時間をかけてリサーチしたほうがいいです。あと、予備実験を何回もしたほうがいいです。

